

視 察 報 告 書

報告者氏名 野村 誠



1 委員会名
総務委員会

2 期 日
令和4年10月20日(木)～同21日(金)

3 視察地及び調査事項

(1) 北海道石狩市

「公共施設等総合管理計画について」

(2) 北海道千歳市

「道の駅 サーモンパークについて」

4 所感等

(1) 「公共施設等総合管理計画について」

●石狩市の概要

石狩市は札幌市の北側に隣接し、平成17年10月1日に厚田村、浜益村と3市庁が合併、面積722.42キロ人口約5万8千人を有する町である。又、経済拠点は「石狩湾新港地域」で、操業企業数650社以上就労人数は約2万人を超える道内最大級の工業団地であり、現在の石狩湾新港はエネルギー供給地として整備、再生エネルギープロジェクトが進行中である。

● 今の地方自治体を取り巻く環境は、人口減少、少子高齢化による社会保障費の増大などにより財政が逼迫する中、既存の施設の老朽化対策に加え、長寿命化や施設の適正配置・再配置が求められており、施設管理業務については喫緊の課題であり、今回の石狩市のインフラ長寿命化計画の体系は国の基本計画に基づいて計画を推進の要請があり、石狩市として①公共施設の管理（長

寿命化、トータルコストの縮減、計画の不断の見直し②まちづくり（PPP・PFIによる民間活用、将来のまちづくりを見据えた検討、議会・住民との情報及び現状認識の共有

③国土強靱化（計画的な点検・診断、修繕・更新履歴の集積・蓄積、公共施設等の安全性の確保などをイメージして民間からの提案。投資促進を行ない、公共施設等総合管理計画に基づく老朽化対策を推進する。

計画期間は20年で、今後の人口減少に対応した施設の最適配置、中長期的な施設のマネジメント、総延床面積の20%を削減する。そのために施設の複合化、集約化、廃止、統廃合を進め、廃止施設は売却、貸付、取り壊しを基本とする。地域・市町村間の相互利用・共同運用を進める。これらの「総合管理計画」に基づき「実施計画」では重点的、優先的に取り組みを進める対象施設を選定し実施方法、年次を決定、進捗管理も行なっていくのが特徴である。更にそこから個別計画でより具体的に整備していく流れになっている。主な取り組みの具体事例として3つの小学校、2つの中学校を1校に統合しさらに同じ敷地に保育園も移転し、厚田学園を新設令和2年4月に開校した事例や、旧厚田小学校の利活用し、簡易宿泊所、アドベンチャートラベルセンター、木工体験、パティシエ体験など実施して関係人口の増加に伴う地域活性化の推進を図った事例、旧聚富小中学校の利活用として統合医療施設を整備し、地域福祉の増進を図った事例が紹介された。

今後の課題は、総論は賛成であるが各論は反対の市民の合意をどう図るのか、遊休施設の売却を進めようとしているがなかなか進まない、長寿命化、解体費用の捻出の財源対策、火葬場、ごみ処理施設の広域での相互利用を図ること。本市においては、現在は人口増化中で取り巻く環境は大きく異なるが、近い将来、確実に人口減少時代になることが想定されることから今回学んだ知見を生かし、各公共施設の長寿命化、再配置等の計画に活かしていくべきと考える。

(2) 北海道千歳市「道の駅 サーモンパークについて」

● 千歳市の概要

千歳市は道の中南部に位置し、石狩振興局に属する。年間乗降客が2000万人を越える新千歳空港があり、国立公園支笏湖などの雄大な自然に囲まれ、交通アクセスや生活利便性に優れた都市環境が調和する中核都市である。千歳サイエンスパークなどの工業団地が数多く整備されている。農業では、ブロッコリーなどの野菜や酪農、畜産、養鶏など畜産の産出額が多い。

● 道の駅「サーモンパークリニューアル事業」について

千歳市は、平成16年8月に「道の駅」への登録を行ない事業費約400万円でトイレや看板、案内サービス等の最小限の整備をした。平成17年6月に共用開始したが、当時の年間利用者は60万人に留まった。利用者からアンケート調査を行なった結果、トイレの老朽化や、飲食、物販が点在し、店舗の営業時間が統一されておらず利用しづらいとの声や、隣接する水族館の入場者低迷、市内商業の消費額が低迷などの理由からニーズの多様化、機能充実、魅力的な施設づくりの必要性からリニューアルを決断し、市民の観光ニーズに対応した飲食、物販に加え、四季折々のイベントを開催できる施設整備、又千歳水族館やインディアン水車、周辺商業施設と連携したにぎわい創出を図った。更に民間活力の導入の課題にも対応し、指定管理料を0円と設定、収益の半分を市に納付する契約を結んだ。その結果、リニューアル後は、来場者も大幅に増加し、コロナ禍で一時は収入、来場者とも落ち込んだが、令和4年度は収入、来場者とも回復し、この日も修学旅行の一行や地元の市民、多くの観光客で賑わっていた。現在は「トイレがきれいだと感じた道の駅」部門1位（4年連続）「家族で訪れたい（子どもや高齢者に優しい）道の駅」部門1位に輝いた。実際に施設を見学してみると、トイレのデザインが清潔でお洒落で採光性を取れ入っていたり、子育て世代に配慮した遊具やキッズトイレの設置など、配慮が行き届いており、市民の憩いの場と同時に観光客など交流人口の増加に繋がっていると感じた。魅力的な水族館や千歳川の鮭の遡上を目の前で見られるのは圧巻

であり、又訪れたいくなる道の駅整備に取り組んでいることは、
今後の議会活動の参考になりました。

以上

視 察 報 告 書

報告者氏名 西 尾 段



1 委員会名
総務委員会

2 期 日
令和4年10月20日（木）～同21日（金）

3 視察地及び調査事項

- (1) 北海道石狩市
「公共施設等総合管理計画について」
- (2) 北海道千歳市
「道の駅 サーモンパークについて」

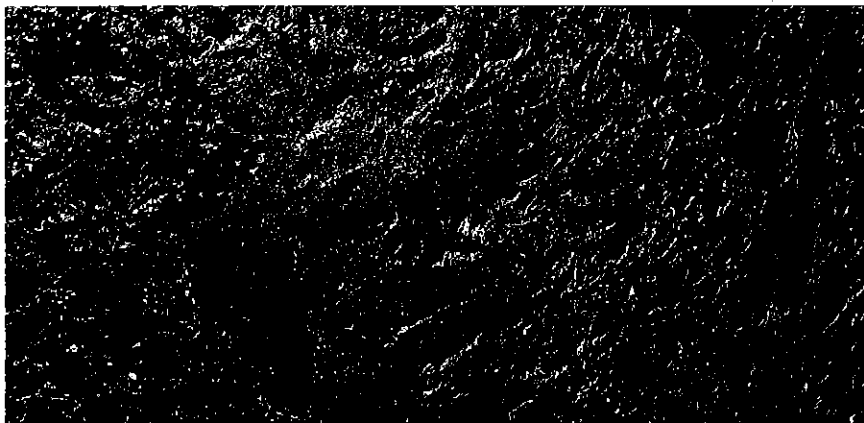
4 所感等

北海道の初日は石狩市の公共施設についての視察でした。歓迎の看板を作って下さっていました。おもてなしの気持ちが嬉しいです。浄水場だった施設を学童クラブに転用した事例を紹介してくださいました。元々あった水槽、ポンプ、配管等を撤去して、きれいに整備したそうです。また、整備するときには、子どもに意見や要望を聞いて出来るだけ実現したことで満足度の高い施設になった様です。子ども達から「虹色のじゅうたんがいい！」という意見があって、以下の真ん中の写真の様に反映させたそうです。

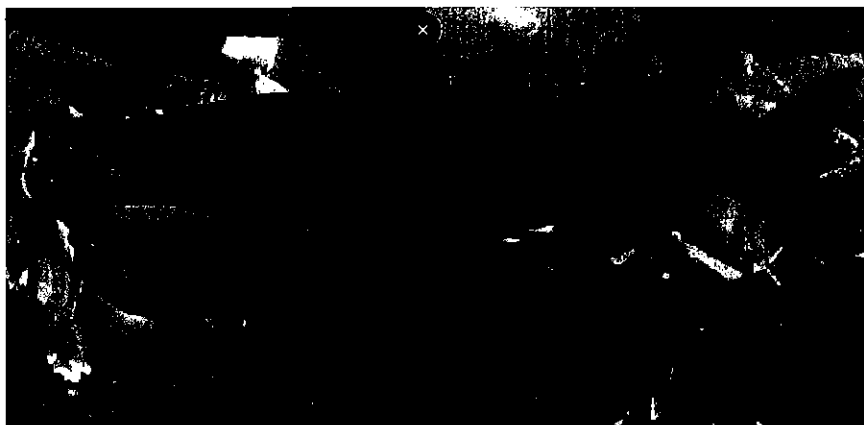


他にもコミュニティセンターをワーケーション「work & vacationの造語」の場所として転用する等、転用の事例をいくつかも紹介していただきました。現在流山は子どもが増えているので保育園や小中学校を増やしていますが、近い将来必ず不要になって高齢者向けの施設等、別の施設に転用していく必要が有ります。浄水場の例を見ると先に考えていなくても努力と工夫で何とかなる様にも思いますが、建物自体を変えるのは多額の予算が必要になるので、多少でも転用することを意識しておく必要があると考えます。

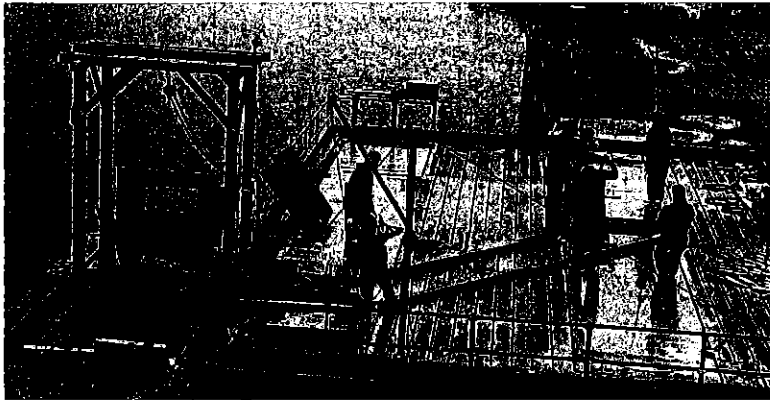
二日目は千歳市の道の駅「サーモンパーク」を視察しました。千歳市は海がないのですが一級河川の千歳川に放流した稚魚が海に出て、成長すると4年後目安に遡上してきて産卵することからサーモンの養殖が盛んだそうです。何万匹もの鮭が泳いでいるのが見えます。



水族館からは川の横から鮭が泳いでいるのが見られます。



インディアン水車と言う物で鮭をどんどん収穫します。1日に約一万匹収穫するそうで、今年はずでに30万匹収穫済だそうです。



流山でも道の駅（ハイウェイオアシス）を作る計画があるため、人が集まり交流できる場所を目指してアイデアを出していきたいです。

北海道全般で感じたことは「うちの市だけ盛り上げたい」ではなく「近隣市全体的に」、もっと言えば「北海道全体で盛り上げたい」という気持ちをみなさんが持っていることです。地域として市境を超えてスタンプラリーをやる等、「観光客は何を求めているのか、どうしたら喜んで再訪してくれるのか」を考えている様でした。事の本質を捉えて活動しているなど感じました。

視察で学んだ事を流山の未来に活かせる様に活動して参ります。

以上

視 察 報 告 書

報告者氏名 坂 巻 儀 一



1 委員会名
総務委員会

2 期 日
令和4年10月20日（木）～同21日（金）

3 視察地及び調査事項

(1) 北海道石狩市

「公共施設等総合管理計画について」

(2) 北海道千歳市

「道の駅 サーモンパークについて」

4 所感等

(1) 北海道石狩市「公共施設等総合管理計画について」

人口減少等による公共施設等の利用需要の変化に伴い早急に公共施設等の全体状況を把握し長期的視点で計画的な更新、統廃合、長寿命化に取り組むことにより、財政負担の軽減、平準化を図り公共施設等の最適な配置の実現により国土強靱化を推進させていくという国の「インフラ長寿命化基本計画」が平成25年11月に策定され石狩市においても石狩市公共施設等総合管理計画が策定された。内容としては、今後の人口減少に対応した施設の最適配置や中長期的な施設マネジメントの策定であり、主な基本方針としては施設の複合化・集約化・廃止・統廃合であり、廃止施設に関しては売却、貸付、取り壊しを基本としている。

公共施設等総合管理計画による集約化・複合化の一取り組み事例として3小学校と2中学校を1校に統合し厚田学園が令和2年4月に開校された。平成17年10月に厚田村、浜益村との3

市村合併により 722,44Km²という広大な面積を有する本市においての学校施設統合はその学区拡大により通学距離や通学時間がどれ程なのかを質問させていただいた回答として、遠いところでは車で 15~20 分もかかってしまう地域もありスクールバスの利用や旧厚田村学区内であっても統合により遠くなってしまった地域からはより近い旧石狩市の学区へ通うこともできるように選択可能としたという。

人口増加傾向にある流山市においては一見喫緊の課題とは思えないかもしれないが、新市街地地域に関しては新しい学校やその他の公共施設が増設されてはいるが一方において北部や東部地域などでは同様に老朽化した公共施設も多く抱えている為、今後を見据えて同課題に対策を講じていかねばならないと感じました。

(2) 北海道千歳市「道の駅 サーモンパークについて」

サケが遡上する千歳川の河畔に隣接するサーモンパーク千歳は、1994年に整備した「千歳市サーモンパーク」の施設を生かし、「道の駅」としては2005年に再スタートをしたという。それまでは敷地内に飲食や物販の施設が点在し、各店舗の営業時間も統一されておらず利用しづらいという利用者からの意見があった。また、トイレなどの施設も老朽化していた。そこで、地域振興施設(センターハウス)に飲食、物販などを集約したという。

千歳市には、北海道の空の玄関口である新千歳空港、水質日本一を誇る支笏湖という交流・観光拠点があるものの、観光客に市街地を訪れてもらうための魅力的な施設が少なかった。そこで、この「道の駅」をわざわざ訪れたいくなるような「目的型の道の駅」として再整備がなされた。

リニューアル事業に関しては、施設についてはPPP活用で、施設運営には民間の指定管理者を公募し、外構部は市が整備する。PPPの事業方式については、PFI、リース+指定管理者、DBO方式などを比較検討したという。

ところが、当初の条件で指定管理者の公募を行ったところ、

応募者はなかったため千歳市では、指定管理者の募集要件について見直しを行い、事業者の負担を軽減すべく指定管理者の業務範囲を地域振興施設とその周辺に限定要件に変更して再公募を行い現在の指定管理者が選定された。特筆すべきはトイレの清潔感・デザイン性で、日本一きれいなトイレの道の駅と説明がありました。この点は観光地に限らず公共施設においてもとても大切な要素であると感じました。

また、同敷地脇を流れる千歳川を遡るサケは視察時期が丁度タイミングが良かったらしく無数のサケが遡上し、そのひしめく様は圧巻であった。これほどまでの遡上量は近年記憶にないほどだとの説明を受けました。

堰に設置されたインディアン水車による捕獲風景もタイミング良く見学することができました。川のすぐ真横に建つ「サケのふるさと 千歳水族館」からはその千歳川の水中を大きな水中観察窓から覗くこともできてとても興味深い思いでした。

視 察 報 告 書

報告者氏名 加藤 啓子



1 委員会名
総務委員会

2 期 日
令和4年10月20日(木)～同21日(金)

3 視察地及び調査事項

(1) 北海道石狩市

「公共施設等総合管理計画について」

(2) 北海道千歳市

「道の駅 サーモンパークについて」

4 所感等

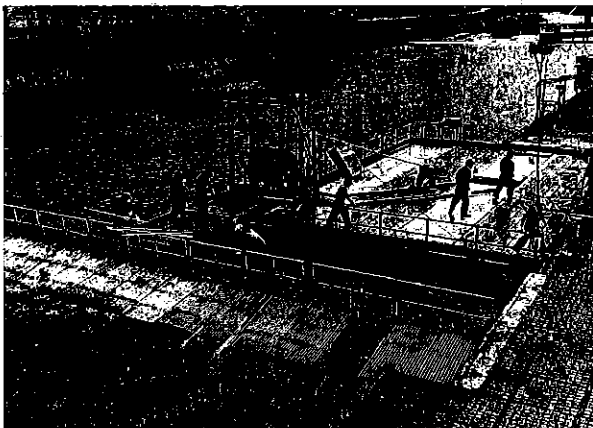
(1) 石狩市

流山市は人口が増えているので現在は老朽化した公共施設の再整備よりも新設する施設に予算がとられており、長寿命化を計っている。しかしいつまでも人口が増えるわけでもなく、老朽化した施設については再整備しないわけにはいかないなので、他市の公共施設等管理計画を視察することには大変意義がある。国の定めで総合管理計画と個別計画は流山市にもあるものの、実施計画については策定しておらず、また、毎年見直しを計るローリング方式になっているのは、毎年の予算状況等を反映して改訂し、長寿命化なのか、廃止なのか、売却なのかを考えることができるため、災害の年などには予算を少なくするとか、こういうことにもう少し力をいれるべきであるとわかった時点ですぐに直すことができるので実効性にすぐれている。流山市でも予算づけも含めた進

抄管理がしやすい、横の連携をとった、実施計画を策定すべきと学んで帰った。

(2) 千歳市

千歳市は流山市と同様札幌市に隣接しているため、子育て環境がよく、子どもの遊べる施設等に力を入れている。今回視察した道の駅+水族館は全国一トイレがきれいであるとされた施設であり、修学旅行生や観光客で大変賑わっている。特に私たちが訪れた10月は産卵間近な鮭の捕獲の時期であり、その様子を見ることができた。稚魚を保育園の子どもたちと5月に放流し、4年経って海から千歳川へ戻ってきた鮭を30万匹捕獲する。岩で傷つきながら遡る姿に自然の偉大さと厳しさを感じる視察であった。流山でも新川耕地の利用についてハイウェイオアシスなどの予定もあるようなので、1日中遊べる施設としてどのような事ができるのかを模索する必要があり、とても参考となった。江戸



川に隣接しているため、ウナギの稚魚を放流する、ウナギとみりんを使って美味しい場所をつくる、など考えられるかもしれない。特に千歳市だけでなく、札幌近郊の市と協力してスタンプラリーを考えたりは、ろこどるの時に少し

やっていたが、終わってしまったので、聖地巡礼的なみりんちゃんの漫画からファンを誘致することも再検討の余地があると思われる。

視 察 報 告 書

報告者氏名 海老原 功一



1 委員会名
総務委員会

2 期 日
令和4年10月20日(木)～同21日(金)

3 視察地及び調査事項

(1) 北海道石狩市

「公共施設等総合管理計画について」

(2) 北海道千歳市

「道の駅 サーモンパークについて」

4 所感等

(1) 「公共施設等総合管理計画について」【北海道石狩市】

～市勢概要～

人口 57,948 人

市域 722.42 km²

議員定数 20 名

札幌市北側に隣接し、石狩川河口に位置する。平成17年10月に旧厚田村、旧浜益村が石狩市に編入する形で合併された。南北長い立地である。また、人口は石狩地域に密集、旧2村の地域は、散在している状況であり、人口の偏在性を抱えた地域である。

～事業概要～

平成26年4月に総務省は「公共施設等の総合的かつ計画的な管理による老朽化対策等の推進」を地方に求めており、本計画もその具体的な実現のために位置付けられているものである。

計画の序列は

公共施設等総合管理計画

↓

公共施設等実施計画

↓

【公共施設】

公共施設個別施設計画

市営住宅等ストックマネジメント計画

学校施設長寿命化計画 等

【インフラ施設】

林道施設長寿命化計画

橋梁長寿命化計画

道路舗装事業個別施設計画 等

との位置づけされている。

本計画の目的は、「今後の人口減少に対応した施設の最適配置」、「中長期的なマネジメント」であり、計画期間を、人口推計に合わせ20年、総延長床面積（262,602㎡）の20パーセントを縮減するとされている。

また、主な基本方針は、「施設の複合化・集約化・廃止・統廃合」、「廃止施設は売却、貸付、取り壊し基本」、「予防的長寿命化改修でライフサイクルコスト縮減」、「地域・市町村間の
この他、庁内手続きや財政措置、各種行政計画との整合など、丁寧で詳細なご説明をいただいた。

また、施設の統廃合の実例としては、

① 厚田学園（集約化・複合化）

旧厚田村地域の3小学校+2中学校+1保育園を移転し、統合。厚田学園として新設した。

②（仮称）浜益学園（予定）（集約化・複合化）

旧浜益村地域の1小学校+1中学校+1保育園を移転し、統合を計画している。

③ 旧厚田小学校

アウトドア滞在拠点、簡易宿泊施設として活用

④ 旧聚富^{しづ}小中学校

総合医療施設として活用。

⑤ 旧水道施設

配電盤などの設備を除去し、学童クラブへ転用。

今後の課題として、「市民合意（総論賛成各論反対）」、「遊休資産の売却」、「遊休施設の跡利用」、「長寿命化・解体等の費用の捻出」、「PPP/PFI（民間ノウハウ活用）」、「広域での相互利用（火葬場、ごみ処理等）」が挙げられている。

～所感～

市町村合併の経過から、南北に長い立地であり、人口密集が偏在している地域性があり、人口密集と過疎が地域課題と考える。

意思決定のプロセスとしては、市長をトップとし、課長級で構成される会議で、施設の今後の方針（延命化、廃止、新設）を決定している。これは単に若手中心のアイデアを募るものではなく、首長の政治的意図、議会对応、住民対応、必要な庁内手続きなど、すべてを把握した上で、速やかな意思決定ができるメリットがあると考えられる。若手主導で斬新なアイデアを募る形式ではなく、課長級以上で構成されるとのことで、決裁権限を有し、ベテランの知識、経験を大いに活かせるものである。施設の改廃は、政治的な問題になりやすく、意思決定する上で、非常に合理的であると感じた。

また、財政部局から説明があり、本計画も財政課で作成しているとのことで、財政部局主導では、「予算の削減方向＝施設の廃止」になるのではないかと、懸念するが、市内の一部地域では、子育て世代が急増しており、施設の廃止に合わせて新たに放課後児童会（本市でいう学童クラブ）を設置するなど、地域の実情に十分な配慮がなされていると感じた。

質疑の中で、現在、札幌市とごみ処理に関し、札幌市の施設で焼却を行うことを検討しているとのことで、施設の最適配置は、自治体単独ではなく、近隣市と共同で行うことも十分、選択肢とすべきである。また、共同利用を目指す施設が大規模になればな

るほど、調整に時間がかかるもので、そこは、首長が先見性を持つこととリーダーシップが期待されるところである。

(2) 「道の駅 サーモンパークについて」【北海道千歳市】

～市勢概要～

人口 50,716 人

面積 594.50 km²

議員定数 23 人

北海道の中南部、石狩平野の南端に位置し、札幌市、苫小牧市などに隣接している。支笏湖を有する。

～事業概要～

現在のサーモンパークは、平成27年にリニューアルされた。リニューアルのコンセプトは、「交通量の多くない国道に面していることから、立ち寄り型ではなく、インディアン水車※や水族館などを生かした「目的型の道の駅」を目指す。」としている。

※遡上してくるサケを捕獲するための装置。

具体的には、アメニティ性の強化（景観や心地よく休憩できる休憩施設、千歳の特産品、お土産品などの提供、四季折々のイベントの開催）、利用客の利便性の強化（トイレの機能充実、コンビニエンスストア、観光情報の提供、点在している施設の集約、市民への配慮（駐輪場等）が挙げられる。

運営方式は、建築物はリース、運営は指定管理者制度を導入している。指定管理者を募集した際には、応札がなく、条件を見直すなど苦労されたとのこと。

また、石狩管内の道の駅連携プロジェクトチームを発足させ、近隣他自治体と情報共有や連携した取り組みを行っており、観光客のドライブ等周遊観光の促進を目指している。

今後の課題として、「地元商店街との連携強化」、「賑わいの創出」、「新たな商品の開発」、「アフターコロナを見据えた事業展開」、「外国人観光客の誘致」、「冬期間など閑散期対策

→安定的な収益の確保」、「地域振興施設とサーモンパークの管理の一体化」が挙げられる。

また、この他に施設敷地内の千歳川の架橋から、サケの遡上を拝見し、平日にも関わらず、多くの観光客で賑わっている様子を拝見した。

～所感～

今回、ご説明いただいたのは、観光スポーツ部観光課の職員であり、スポーツと観光を結びつけて部署を編成しており、観光地にある自治体ならではの市の業務の捉え方を感じた。

現場を拝見する中で、最初にしたのは、清潔感である。ごみが落ちていないことはもちろんのこと、建物のデザインも外注し、洗練されていた。お話を伺うなかで、トイレをこだわっているとのことで、他に見られない特色として、子ども用トイレがとても充実していた。ポップなデザインに、家を模したトイレの個室を用意しており、いわゆる公共施設にあるような画一性、古臭さが全くなかった。北海道の道の駅ランキングで「トイレがきれいだと感じた道の駅」部門に4年連続1位になられていることで、メディアの取り上げられ方も研究しているようであった。

また、北海道のメインの観光シーズンは夏であり、厳冬期には観光客は見込めないことから、地元の市民利用も意識した（子ども用の遊具の設置、子ども専用トイレ、屋内の遊びスペースなど）施策展開をされている。

観光施策を展開する上で、重要なのはリピーターを作ることであるといわれるが、千歳市は、他自治体の道の駅との連携に答えを見出そうとしている。新千歳空港から札幌までの単なる通過点とならないように、また、レンタカーでの移動の際に、他自治体の道の駅の行き帰りに立ち寄りやすい施設なることを目指しているようであった。

初日に訪れた石狩市もそうであるが、近隣市との連携を重視しており、首長や議員は、自身の自治体ファーストになってならないと思う。市民は、施設を利用するときに、居住自治体のもので

あるかどうかは、あまり気にしない。行政的には、他自体の住民利用には、利用料金を変えるなど差を付け、あまり好ましいものではないと捉えられるが、改めて近隣市の施策動向を注視することの重要性、議員としての関係づくりを見直す2日間となった。

視 察 報 告 書

報告者氏名 森 亮二



1 委員会名
総務委員会

2 期 日
令和4年10月20日(木)～同21日(金)

3 視察地及び調査事項

- (1) 北海道石狩市
「公共施設等総合管理計画について」
- (2) 北海道千歳市
「道の駅 サーモンパークについて」

4 所感等

●石狩市:流山市は市政施行が昭和42年であり昭和40-50年代に建設された公共施設は数多くあり、今後の維持・管理・補修とともに、長寿命化や建替えの議論は議会でも活発に続いている。そのような中で「公共施設等総合管理計画」を的確に実施している石狩市について調査を行った。

流山市と大きく違う点は急激な人口減少であり、またそれに伴う厳しい財政事業によるところが大きいことが背景にあった。そのため新設の議論よりも「長期的視点で「計画的な更新・統廃合・長寿命化」の視点は再優先であり、それは市民にも理解されていることを痛感した。

その際の基本方針と進め方は大いに参考になるものであった。一つ目は廃止施設の基本方針は「売却・貸付・取り壊し」であること。中途半端な選択肢がないため、少し乱暴になるかもしれないが、覚悟を持って進めている姿勢である。また北海道のような広域的な自治体では非効率も目立つ中で、「地域・市町

村間の相互利用・共同運用」に重点を置いた点も興味深い。何故なら本市が位置する千葉県東葛エリアはいまだ人口が増加、漸増、維持、悪くても漸減であり、広域で調整する前にまずは自前の努力が求められ、それに耐えうる事が出来る点がある。地方は待ったなしの状況であり、事業的にも「十分な協議」や「合意を図る」必要性から、少しでも早く取り組むべきという点での覚悟の強さを感じた。出来得るならば、当市でも先手先手の対応を心掛けたいものである。

当市もまた他市でも「総合管理計画」が策定されて久しい。行政特有の「作って終わり」ではなく、「ようやくスタートラインに付いた」という意識のもと、計画の着実な実行を目指し、二元代表の一翼である議会としての役割（主には進捗管理やチェック）を果たしていきたいものである。

●千歳市：流山市でも「道の駅」事業の進出が期待される中、成功事例の一つ、千歳市「道の駅サーモンパーク」を調査した。

まず評価すべきところはネーミングではないだろうか。親しみがあり、どこか行政らしさから離れたネーミングにインパクトと期待感を感じた。ネーミングライツなどは用いていないものの、やはり施設名称や愛称の導入は必要不可欠なものであると感じる。ただ命名時期はかなり前であったため、ネーミングに至った背景などはわからないとのことであった。長きにわたり愛され、浸透されるためにも施設名は重視したい。

施設の充実強化に向けて民間活力をいかした点は大きい。そのためか施設の素晴らしさについては、実際に施設を訪問したことでよく理解できた。また飲食エリア、トイレ、子育て向けエリア、販売コーナーの大きさなど、それぞれ目的別になっていて、しかも清潔感があり、充実したところも見習いたい。同施設もそうであるが、少し前に建設された建物は狭陰なこともあり、何でも盛り込んでしまうと、少し窮屈に感じることも多く、利用者の立場からすると長い時間滞在しようという思いにはならないが、こちらの施設には、どことなく「ゆとり」を感じられたのも大きなポイントと感じた。

そして直接のテーマではないが、ふるさと納税についても質問させて頂いたが、なんと40億円超を納税いただいているとのことであった。同市の本気度を感じた瞬間である。

アフターコロナのもと、市内の観光やインバウンドに向けてはやはりツーリズム強化は必須である。今回学ばせてもらった運営手法やコンセプトなどは、流山市のツーリズム事業についても生かしていきたいものである。